

平成27年度採択 島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業 進捗状況

資料5-1

(平成30年3月時点)

代表事業者	事業		状況	
	事業名	ビジネスモデル	現状	今後の展開
株式会社奥出雲振興	「食」×「温泉」×「自然」×「産業」＝「健康」 奥出雲町の地域資源を活かしたヘルスツーリズムプログラム「奥出雲セラピー」によるビジネス展開	奥出雲の温泉、エゴマや地域食材を使ったヘルシー料理、登山・ウォーキングなどの運動、大人向けそばんプログラムを組み合わせたヘルスツーリズム	○ エゴマや地域食材を使ったヘルシー料理（亀高膳）を継続販売。	○ ヘルスツーリズムの内容を検討・再構築し、県外からの誘客に取り組み。 ○ 町の観光協会と連携し、継続的に取り組む。
NPO法人里山コミッション	心とカラダに美味しい健康ビジネスモデル構築事業	超高水圧技術で処理された玄米による健康に良い特別な食事プログラムと、自然を活用した森林セラピー事業を組み合わせたヘルスツーリズム	○ 森林セラピーツアーは、観光協会が主導的に行っている。 ○ 玄米を活用した弁当を商品化し、森林セラピー利用者に継続的に販売。	○ 森林セラピー事業の継続的な実施。 ○ 玄米を活用した商品を継続的に販売。
株式会社バイタルリード	高齢者サポーターを活用したお出かけ・リハビリ・キレイ・笑顔満載ツアーによる健康増進事業	高齢者向けのタクシーを利用した買物リハビリ、日帰り観光、美容エステを組み合わせたミニツアー	○ 買物リハビリは切り離し、別途事業化に向け再構築を行っている。 ○ 日帰り観光、美容エステを組み合わせたミニツアーの料金、内容を再検討。	○ 引き続き、検討。
株式会社伸興サンライズ	しまね「健」・「職」スタイル～職場習慣から健康を創る～	ITシステムを用いて日常の健康データを管理し、被験者の状況に応じて健康の原点である「食事」と「運動」の指導・提供を行うサービス	○ 協会けんぽとの連携やサービスメニューの内容等を検討中。	○ 「職場習慣から健康を創る」を軸に様々なメニューを検討していく。
内藤株式会社	大田出雲 ヘルスツーリズム創出事業	ヘルスツーリズムに特化した専門事業所を立ち上げ、大田市および近隣の地域資源を活用し、運動療法、気候療法、温泉療法、坑道療法、海岸療法、食事療法などのヘルスツーリズムを提供	○ 温泉津で温泉やウォーキングなどの体験プログラムを提供中。	○ 市内の他地域や大田市クワオルト協議会などと連携して、ヘルスツーリズムの提供を継続して検討する。
モルツウェル株式会社	栄養管理食品とマッサージを活用した出張福利厚生ビジネスモデルの創出	栄養を考慮した食事の提供（オフィス置き惣菜）と出張マッサージを組み合わせた、新たな福利厚生サービス提供	○ デイサービス事業者に置き惣菜を取り扱ってもらうことを検討し、テストマーケティングを行った。	○ 製造ラインの検討や商材の検討を継続。
NPO法人生活習慣病予防研究センター	高い質と多様な住居・生活支援サービスを提供するシニア・コミュニティ構築	出雲市で質の高い老後生活を送ることのできるシニア・コミュニティを構築する自治体を含む有料施設ネットワークを形成し、人材育成やPRによって県外等から移住を促進	○ 施設ネットワークの構築に必要なメリット（「入居者増」や「共通課題の解決」など）を示すことができず、有料のネットワークが形成されていない。	○ 平成28年8月にプロジェクト会議を市役所等と立ち上げ、介護人材の確保・定着などの共通課題について検討中。
株式会社メディアスコープ	認知症高齢者および介護支援者への支援システム「回想法ケアビジョン」の開発	回想法という高齢者の思い出を蘇らせ、認知症予防に繋げるシステムを開発することで、介護予防と介護従事者の支援を行う	○ 回想法を軸に事業化を検討中。担当者が育休のため、休止中。Pepperを活用したヘルスケアビジネスを展開している事業者と連携を模索。	○ 担当者復帰後、問題となっている映像コンテンツの著作権処理や事業連携などを検討していく。

平成28年度採択 島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業 進捗状況

(平成30年3月時点)

代表事業者	事業		状況	
	事業名	ビジネスモデル	現状	今後の展開
株式会社 しちだ・教育研究所	コミュニティ形成支援『脳ブレ+』プログラム開発検証事業（七田式いきいき脳開発プログラム）	認知症予防を目的とした「高齢者向け七田式脳トレ」やコミュニティ新聞作り教室を組み合わせることで、コミュニティ形成及び自己効力感の向上を図り、認知機能予防効果における更なる付加価値を付与する。	○ 現在、新規参加者6名を含む23名が参加し、認知機能など5種を実施中。 ○ 施中。 他の自治体の福祉イベントや特養で、事業説明などの広報活動を実施。	○ 継続して、事業展開を検討する。
合同会社 S-WORKS 島根オフィス	ITと通勤を活用したスマートヘルスケア事業	健康プラットフォームと、ウェアラブル端末等を組み合わせた企業向けヘルスケアサービスを提供することにより、通勤手段を変えるだけで従業員の健康増進・医療費抑制に効果があることを検証する。	○ 昨年度に引き続きサービス提供を行っており、新たに企業向けデータプラットフォーム「健康サポートLINK」を通じた、組織別の健康データを基にした効果測定を目指している。	○ 引き続き実施する。
奥出雲塾	認知症予防のための「大人のそろばん教室」全国展開ビジネスモデル構築事業	認知症予防を目的とした高齢者向け「大人のそろばん教室」用の教材を開発し、ノウハウを確立、雲州そろばん販売までをパッケージ商品とした、全国のそろばん教室講師向けの研修を奥出雲町で実施し、チェーン展開ビジネスモデルを構築。	○ 現在3教室で実施。仁多14名、横田1名、馬木5名。	○ 別地区での教室を検討中。
エクスウェア株式会社	ITと人型ロボットPepperによる認知症リハビリテーション支援事業	人型ロボットPepperの開発技術を、高次脳機能障害ダイケア「きらり」が提供するリハビリテーション医療に応用することで、障害の程度に合ったリハビリテーションプログラムを効率的に提供する。	○ pepperの会話機能の不足を補う機能の抽出と検証を実施。	○ 継続して機能等の向上を検討。 ○ メディアスコープとの連携を検討。
特定非営利活動法人 ふるさとつなぎ	《島根県立大学発》多様なニーズに対応したヘルスケアプログラム構築・事業	県内の温泉・食・特産品等の資源を有効活用し、特定の患者をターゲットにしたプログラムを構築し、症状の改善・緩和を狙う。	○ 県大の研究の一環として4つのツアーを実施。効果検証をした。	○ 県大の研究としてツアーの効果検証を継続実施。
株式会社 テクノプロジェクト	療養指導士による「食」を中心とした生活習慣改善プログラムの構築	島根県内の糖尿病患者、糖尿病医療従事者、一般市民に対する糖尿病予防・悪化防止のサービスを行うために、生活習慣改善のための個別指導プログラムを構築する。	○ 栄養指導補助ツール「Limisa」の完成に向け、検討中。	○ 引き続き検討。
株式会社 金城観光ホテル	美意識向上が健康づくりの秘訣！ 浜田発「美肌通りズム」	「いつまでも美しく健康でありたい」と願っている女性に対し、「美又温泉」、ホースセラピー等を「美肌」「健康」をキーワードとした、有機的な連携による「美肌通りズム」を提唱し、「黒食材」と併せてカラダの内外から美肌・健康美人となってもらう通りズムを提供。	○ モニターツアーを実施し高評価だった。ツアー広報用パンフレットも完成し、事業化に向け営業を行った。	○ 営業の強化
合同会社 三和コミッション	Web会議システムによるエゴマ油を使用した地中海式和食遠隔料理教室の構築	認知症予防に有効とされる地中海式和食と、川本町特産品のエゴマ油を使用して、料理教室を実施。Web会議システムによる遠隔料理教室を行い、町全体の認知症予防に拡大するシステムを構築する。	○ 遠隔料理教室を継続して実施。Web会議システムをスカイプシステムに変更して実施した。4回実施し43名の申し込みがあった。	○ 引き続き実施していく。

## 平成29年度 島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業 採択一覧

	カテゴリ	区分	実施地域	代表事業者	事業名称
1	生活支援 と疾病・ 介護予防 サービス	①	松江市 出雲市	株式会社ERISA (松江市)	機械学習を活用した脳のMRI画像診断支援プログラム開発事業
2	ヘルスツ リズム	③	吉賀町	Original Nutrition株式会社 吉賀町支店 (吉賀町)	地域資源ネットワーク“よしかスタイル”によるヘルスツリーリズム
3	生活支援・ 介護予防 サービス	②	出雲市	株式会社バイタルリード (出雲市)	生活習慣病患者とその予備群に対する健康な生活管理と診療支援システム
4	生活支援・ 介護予防 サービス	①	奥出雲町 雲南市	光プロジェクト株式会社 (雲南市)	「お買い物×リハビリ」による総合事業と介護保険外事業のフランチャイズモデルの構築
5	ヘルスツ リズム	②	出雲市	一般社団法人 川本6次産業化ネットワーク (川本町)	出雲大社参拝ツアーの新たな魅力作り-科学的視点からの検証&土産品開発-
6	生活支援・ 介護予防 サービス	①	浜田市 江津市	山陰ビジネス・ブレイン株式会社 (雲南市)	地域住民を巻き込んだ高齢者向け予防体操の開発

## &lt;区分&gt;

- ① 広域型
- ② 地域型(単一市町村での取り組み)・医学的検証を含む
- ③ 地域型(単一市町村での取り組み)・その他

## 事業概要図

事業目的: 人工知能を用いて、脳のMR画像から認知症か否かを判断するプログラムを開発し、新たな認知症診断サービスの事業計画を策定すること。

### ニーズ: 認知症の早期診断

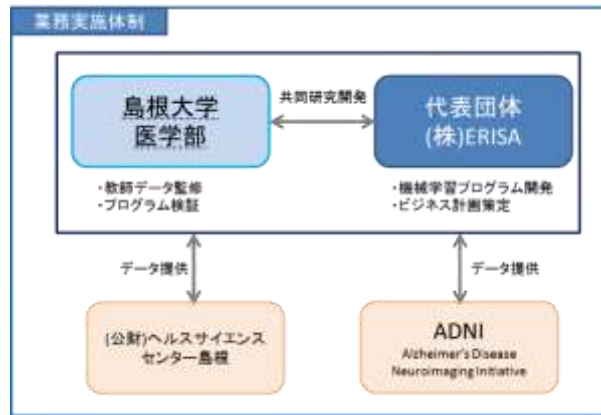
- ・2025年、日本国内の65歳以上の認知症患者数は約700万人にまで増加すると予測される
- ・認知症の予防、進行の抑制のためには認知症の早期診断が必要

### シーズ①: 島根大学の認知症研究

- ・国内最大・最良のMRI及び関連する医療データが蓄積されている
- ・MRIを用いた認知症検査方法に関する特許技術を保有

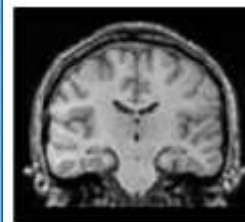
### シーズ②: ERISAのAI開発ノウハウ

- ・AI(人工知能)の開発ノウハウを有する
- ・AIを用いた技術を事業化するノウハウ及び人的ネットワークを有する

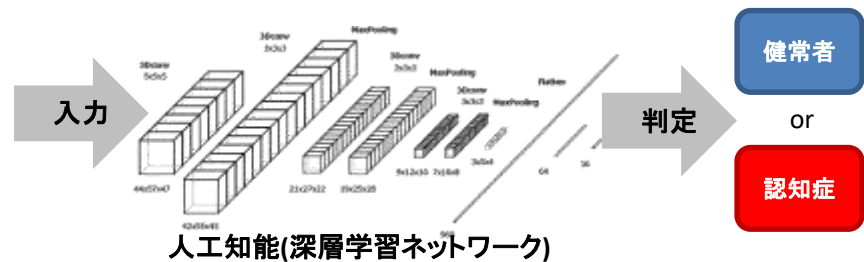


## 機械学習を活用した画像診断プログラムの開発

・北米及び島根大学医学部が保有するMRIデータを人工知能に学習させ、健常者か認知症患者かを脳画像から91.4%の精度で判定するプログラムを開発した。



脳画像



## 事業で得られた成果

### (ビジネス面)

・MR画像診断プログラムに対して、製薬企業、脳ドック実施機関での需要が大きいことが確認できた。

### (健康面)

・健常者、認知症患者をMR画像のみから91.4%の高精度で識別できるプログラムを開発できた。

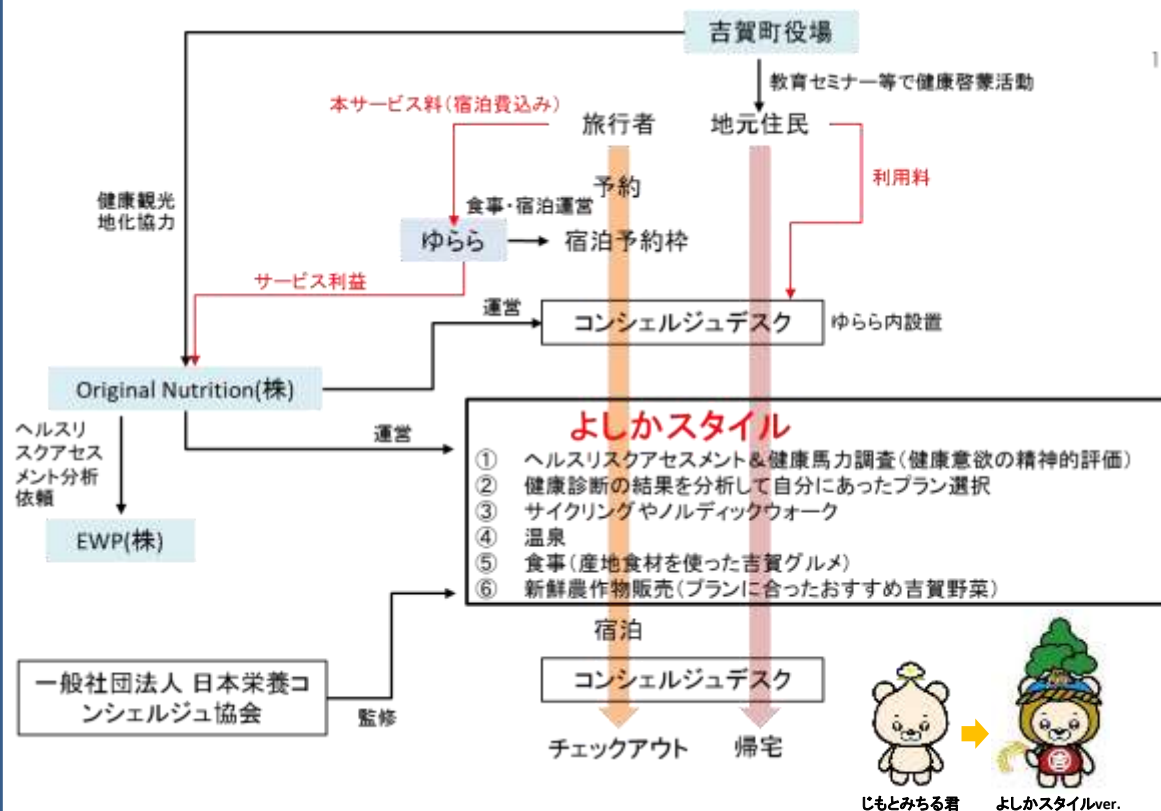
## 今後のビジネス展開

- ・認知症治療薬を開発している製薬企業及び脳ドックを実施する検査機関、海外の高所得層に対し、MR画像解析サービスを提供する。
- ・MR画像解析サービスとIoTデバイスを組み合わせて、介護事業者と共同で認知症予防プログラムを開発する。

## ビジネス展開する上での課題

- ・複数の施設で得られたデータを収集・検証することで、本プログラムの汎用性を高めること。
- ・学会発表及び論文発表を通じた医学的な証拠の強化。
- ・医用画像を始めとした個人情報の取扱い手続きの簡略化。

## 事業概要図



健康に対する精神的意欲への効果



## 事業で得られた成果

(ビジネス面)

よしかスタイル申し込みから実施までの仕組み作りが完成し、吉賀町内および大阪企業から予約がすでに入っている。

(健康面)

健康に対する精神的意欲が高まった。

## 今後のビジネス展開

・ホームページにて吉賀町の紹介と宿泊予約への誘導を行う。週末に女性が吉賀町を訪れることを促すため、「週末旅行女子」という標語を多用し、主題歌と動画をSNS等でイメージ作りを行う。

## ビジネス展開する上での課題

・吉賀町の立地から広島からの集客は比較的容易だが、関東からの飛行機を利用した集客は、萩・石見空港からのバス等がないため極めて難しい。

# 生活習慣病患者とその予備軍に対する健康な生活管理と診察支援システム

代表事業者名 株式会社バイタルリード

参加団体名 島根大学医学部附属病院、株式会社トルクス

実施地域 出雲市

事業区分 広域型

## 事業概要

本事業では、健康行動に関する意識変容・行動変容を促すとともに、継続した生活習慣管理とその結果を診療に活用するシステムの開発・試行・効果分析を行った。

具体的には、

- ①健康診断や医療機関受診後に「受療行動」「健康行動」に行動変容を促す仕掛け。
- ②利用者の健康に留意した生活習慣管理と継続行動のしくみづくり。
- ③利用者の生活に関連するデータを活用した診療支援から構成されるシステムを開発。
- ④島根大学医学部付属病院の職員、及び連携する市役所職員や民間企業職員として試行を行った。
- ⑤試行結果から、本事業の効果測定をするとともに、次年度以降の具体的な事業化に向けた課題整理とシステムやビジネスモデル改善点を抽出した。

事業全体図(別紙①参照)

### 事業で得られた成果

(健康面での効果)

約10%程度はアプリの使用による意識の変化があった、有用性ありと回答している。

(ビジネス面での効果)

予備軍層や健康への意識が低い層にアプリを利用させるための仕組みを見出すことが可能になった。また、ユーザー層毎にアプローチを変化させることにより、継続利用を促進することが可能なことから、将来性を見出すことができた。

### 課題

- ①アプリの使用操作性の向上促進
- ②ターゲット層毎の機能分類
- ③医療的側面、健康増進をサポートする機能の充実
- ④アバター機能の充実
- ⑤医療機関で利用可能となる仕組みの構築

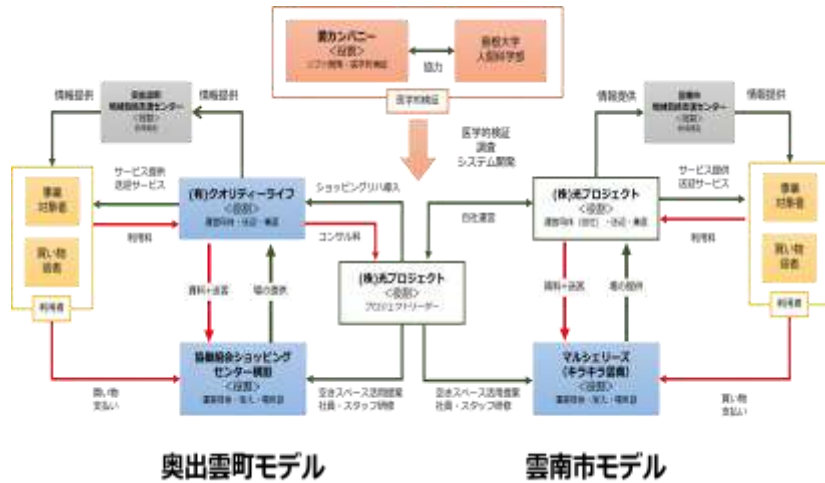
(詳細は別紙①を参照)

### 今後の事業展開

スマートフォンアプリをブラッシュアップし、健康情報の配信やアバター活用などのコンテンツを充実化させる。さらに健康ボーダー層向けに予防医療を目的とした各種健康支援メニューの開発や、健康器具との連動機能を行う。そして、データ共有の仕組みを再構築し、データを活用した医師の診察支援システムを検討する。

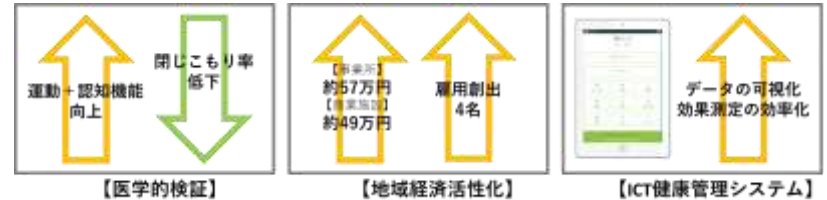


事業概要図



【事業の成果】

- ・島根大学人間科学部のとの共同研究により、ショッピングリハビリの効果として、運動と社会的交流による①運動機能の向上②認知機能の向上が期待できる可能性を示した。
- ・地域経済活性化の観点では、導入先商業施設（マルシェリーズ）では、利用者の一回の購買金額の平均が3,500円を超え、1ヵ月の事業参加人数は140人（2月の延べ人数）となり、490,000円/月（140人×3,500円）の売上が創出された。また、総合事業単体事業としても、新たな収益モデルとして、約570,000円の実績が上がっており、新たに4名を採用した。
- ・ICTを活用した健康管理システムの開発により、上記の心身機能の向上が可視化され、効果測定効率化にも繋がった。



【健康面】

・「歩く」「話す」「選ぶ」「考える」などの複合動作を通じて、心身機能の改善が出来るだけでなく、社会保障費の削減にも繋がるリハビリサービス。



事業で得られた成果

【ビジネス面】

・ビジネスモデルの構築、フランチャイズマニュアルの作成により、商業施設への導入を2件行う事が出来た。現在、関西エリアで1件、契約間近の商談中。

【健康面】

・運動と社会的交流による①運動機能の向上②認知機能の向上。閉じこもりの頻度が有意に低下した事も大きな成果といえる。

今後のビジネス展開

- ・当初の計画通り、協働組合全国店舗連盟を通じた横展開戦略を行い、全国の商業施設へ発信を行っていく。
- ・新たなビジネスモデルの構築により、定価を新たに1件360万円とし、平成30年には14件の導入を目指し、5,040万円の売上を目指す。（360万円×14件）
- ・現在、関東エリアで3件、北陸エリアで2件、関西エリア1件、中国山陰エリアで3件の商談中。

ビジネス展開する上での課題

- ・導入までに、自治体や商業施設、介護事業所のマッチングが必要な為、クロージングまでの工数が多いのが課題である。
- ・しかしながら、商業施設単体でも収益性が見込める事が、当該事業で立証されたことから、今後は、商業施設に直接営業を掛ける戦略で、全国にビジネスモデルの拡大を目指す。
- ・商業施設導入後に、自治体や介護事業所を招いた研修などを通じて社会保障費の削減に取組む。

## 事業概要図

### 事業概要

出雲大社参拝が自律神経機能検査などに及ぼす影響を科学的に検証した。それに基づいて観光ナビ（英語）を作成し、モニターツアーを実施し、商品化を行った。また、出雲の特産品にエゴマを加えることにより、付加価値を付けて新たな土産品を開発した。

#### 1. 出雲大社参拝の科学的視点からの検証



#### 2. 新たな健康に関連した土産品(ギフト)を作成



#### 3. 観光ナビ(英語)を作成

<http://www.kawamoto6ji.jp/izumotaisha/>



#### 4. 成果報告書の作成と報告会を実施



## 実施体制

一般社団法人川本6次産業化ネットワーク  
・全体進行管理  
一般社団法人出雲観光協会  
・地元との調整

島根県立大学出雲キャンパス  
島根大学  
・プログラムの立案  
・科学的検証  
・ナビ作製  
・土産品開発

ツーリストいずも  
・モニターツアー計画・実施

## 事業で得られた成果

(ビジネス面)

・出雲大社ヘルスツーリズムとしての旅行商品の開発

・新たな土産品(ギフト)を作成

(健康面)

・出雲大社のヘルスツーリズムとしてメンタル面に有効

## 今後のビジネス展開

- ・旅行商品の開発
- ・土産品の販路拡大
- ・成果報告書の販売拡大

## ビジネス展開する上での課題

- ・土産品の販路の拡大においては未経験のためにこの事業期間ではまだ十分でない。
- ・えごまブレンド茶の健康への影響について実証



事業概要図

【事業概要】

地域の社会福祉法人と連携し、介護状態を未然に防ぐ事を目的に、感情認識ヒューマノイドロボット「Pepper」を活用し、介護予防体操・地域独自の寓話を企画・開発し、地域住民及び介護施設に通う利用者等を対象とし、介護予防体操サービスの企画・開発・実証を行った。取組んだモデルをパッケージサービス化し、地域での高齢者向け介護予防取組サービスとして普及を企図。



サービス提供

取組概要

江津、浜田市を中心とした  
地域の社会福祉法人—いわみ福祉会との連携

対象

介護施設に通う利用者 及び 地域住民 (元氣高齢者)

目的

介護予防 サービス の 充実化

実施内容

① 介護 予防体操を開発 しパッケージサービス として提供

? 感情認識ロボット「Pepper」を 地元の歴史、風景、映像等のコンテンツ活用 配信 (「Pepper」と定期的な 触れ合い 参加意欲の向上 につなげる。)



本事業ターゲット

地域住民元氣高齢者

要支援1	日常生活はほぼ自分でできるが、介護施設や訪問になることを希望する等に、少し支援が必要。
要支援2	日常生活に少し支障があるが、小規模サービス等があれば、継続の維持、改善が望まれる。
要介護1	立ち上りや歩行がやや不安定、社会生活はほぼ自立しているが、介護や入居などにより一部介護が必要。
要介護2	立ち上りや歩行が不安定で、介護や入居により一部介護が必要。
要介護3	立ち上りや歩行がほぼできず、介護・入居・看護や食事などによる並行介護が必要。
要介護4	日常生活の中で能力の衰やみられ、介護・入居・看護の専断による介護が必要に一部介護が必要。介護なしでは日常生活が困難。
要介護5	介護施設にあり、介護が必要に介護が必要。介護なしでは日常生活が困難。

事業で得られた成果

(ビジネス面)

・サービスに対する満足度が高かった為、展開する社会福祉法人等においてサービス継続活用の可能性が高まった。

(健康面)

地域住民、施設利用者参加者延べ101人アンケート結果①98%が「ペッパー」と体操する方が、ふだん体操するときよりも「楽しい」②90%が体操したあと、「気持ち良い」との回答

今後のビジネス展開

・ペッパー初期導入費用等を軽減できる施策等模索しつつ、他地域、福祉施設との実証及び連携を模索

ビジネス展開する上での課題

・介護予防体操、コンテンツ等のサービスへの満足度は高いが、介護施設、社会福祉法人等のペッパーレンタル費用が高額な為、サービス導入へのハードルが高い  
・実施期間短縮もあり、実証と並行しての他福祉施設との連携・プレマーケティングまで実施できずユーザーニーズをつかみきれていない面